

令和3年度事業報告書

自 令和3年 1月 1日
至 令和3年12月31日

一般社団法人 日本書道院

当法人の令和3年度に於いて実施した事業は次のとおりである。

1. 第70回記念日本書道院展

コロナ禍により1月に発令された「緊急事態」も解除され、3月25日(木)からの搬入・審査・部屋割・陳列も順調に進み、4月2日の開幕を無事迎えることが出来ました。各委員や来場者には、消毒・検温等の協力をお願いし、日本書道院関係者からは新型コロナウイルスへの感染者はありませんでした。

公募と同人以上の出品作品は1053点。これに一般公開中止となった前年の第69回展の文部科学大臣賞をはじめとした上位入賞者作品に会長副会長作品を加えた31点を再展示しました。また、創立70周年記念として「日本書道院」を支えた歴代役員作品13点と写真等を日本書道院の歴史として陳列致しました。お世話になった先生方の作品や懐かしい顔が揃った集合写真もあり、会場では思い出話に花が咲きました。

記念展であることから出品者の意欲は強く、出品作品はどれも「明るく力強く」来場者を魅了しました。記念展の試みとして「第1科審査会員」の作品は、HPに掲載してQRコードで直ぐに釈文等まで確認できるようにしました。来場者や業界関係者には大変好評でした。

4月7日の表彰式は、ホテルラングウッド会場での密を避けるために、例年より出席対象を限定して開催いたしました。この時に永年功労のあった支部長表彰を併せて開催し、代表者に賞状と記念品を授与しました。

表彰式後の「出品者の集い」は新型コロナウイルスの感染防止を考慮して、パーティション設備や会場の換気の良い上野精養軒で開催しました。出席者は80名ほどでしたが、記念展を締めくくる和やかな会となりました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

2. 第70回記念全国学生書道展覧会開催と表彰式

全国学生書道展覧会はコロナ禍により学校行事が中止されることの多い中、本展(従来サイズ)とK展(半紙サイズ)合わせて1662点の作品が集まりました。

学生展でも第 69 回展の上位入賞者から再展示への協力を得た 45 点と指導者作品 15 点を加えて合計 1722 点となり、前年とほぼ同じ出品数となりました。

文部科学大臣賞・知事賞・会長賞・日本書道院賞作品は日本書道院展同様HPに掲載してQRコードで作品と受賞者コメントが確認できるようにしました。会場で楽しそうにスマホをかざす来場者が大勢いました。4月4日の表彰式は登壇人数を抑えて開催しましたが、授賞式動画をHPにアップしました。会場はホテルラングウッドでした。

3. 第9回100人展・第38回選抜展・第13回同人展

11月23日(火)～28日(日)まで100人展をセントラルミュージアム銀座で、フェニックスホールで、選抜展・同人展を予定通り開催しました。出品総点数は346点、前年より3点の増加でした。昨今の展覧会で出品数が僅かでも増えたことに、関係各方面から驚きの声と共に称賛されました。皆様の意欲に感謝申し上げます。

100人展会場は日本書道院を代表する漢字・かな・詩文書作品が三位一体となり品よく陳列され、静かな居心地の良い会場となりました。選抜展・同人展も明るく作品が陳列され、来場者を迎えました。作品レベルも高く、ある評論家は日展での入選も視野に入る作品もあると評価してくださいました。100人展の正面に陳列された作品の充実振りと個性豊かな作品群は抜群であるとの評価を沢山の業界関係者からいただきました。

今回も、社会の状況から受付を設けず、自動検温器も準備しての開催となりました。会期がコロナ禍の緊急事態が解除された後だったため来場者が大変多く、例年の観客数を上回るほどの入場となりました。密を避け消毒等に協力頂き感謝いたします。

今回も、100人展会場作品は作品写真・釈文等をHPにアップし、QRコードが利用できるようにしました。

本院創立70周年記念と併せたパーティーは残念ながら中止し、70周年記念パーティーは2月27日に延期して開催することで進めておりましたが、コロナウイルスの感染拡大により取りやめました。

また、創立70周年につき、60周年時に作成した「記念墨」と40周年時に中国・鎮江市北固山に建立した「望月望郷詩碑」拓本を希望者へ廉価にて販売し、完売いたしました。ありがとうございます。

4. 第72回毎日書道展

前年から延期となった第72回毎日書道展は搬入・審査準備・審査・陳列と密を避ける工夫を凝らし無事開催いたしました。日本書道院の出品点数は減少したも

の、グランプリと呼ばれる会員賞に、漢字部で杉山桂舟かな部で児玉裕美のダブル受賞となりました。また、毎日賞7名・秀作賞13名・佳作賞29名に加えて、U23では新鋭賞と奨励賞に1名ずつ選ばれ大変好成績でした。表彰式は7月18日にザ・プリンスパークタワー東京で開催され、日本書道院からは会員賞・毎日賞と各賞代表に選ばれた方と、中村会長・三宅副会長をはじめ当番審査員と展覧会委員等の出席がありました。表彰式後恒例の懇親会は残念ながら中止となりました。

5. 支部長会

6月13日(日)と11月7日(日)に予定した第40回と41回の支部長会は、前年に続き、日本書道院会館での開催を見送り、師範・準師範試験並びに昇段級試験の参考作品揮毫動画をDVDにまとめて、支部長や受験者の希望者へ頒布しました。

中村会長と成田常務理事が揮毫しながら解説され大変分かりやすいと好評でした。繰り返し見ることのできるDVDの良さもあります。今後も支部長会にむけて工夫を重ねていきたいと考えています。

6. 研修旅行

コロナの感染状況を見て計画することにしていましたが、夏の盛りの第5波の感染状況から今回も研修旅行は中止しました。なお、本年は現状では未定となっています。

7. 研修会の開催

①日本書道院展・毎日展等への研修会は郵送により作品を受付添削することを中心に行いました。1月末に予定していた研修会は郵送のみで40点程の参加でした。3月21日(日)の川口リリアでの研修会は、実習者と郵送で併せて36名の参加でした。7月29日(木)は川口リリアで100人展・選抜展・同人展を対象に研修会を開催し郵送・実習合わせて80名を超える参加となりました。

②各支部主催による研修会が開催されました。(開玄社研修会・水光会研修会)

8. 師範・準師範・昇段級受験者のための講習会

9月3日(木)、師範・準師範・昇段級試験受験者を対象とした研修会も、多くの方が集まることを避けて、郵送による添削指導のみといたしました。添削指導を受けた方全員が合格・昇格いたしました。

9. 同人昇格者推薦証・師範合格認定証交付式及び同人展表彰式

12月5日（日）同人昇格者19名、第63次漢字・かな及び第21次詩文書の師範と第4次硬筆部師範に合格された83名、毛筆細字部玄位認定者2名、榮譽師範合格者7名に推薦証並びに認定証の交付と同人展の優秀賞10名への表彰を行いました。出席者は53名でした。ホテルラングウッドの広い会場での授与は参加者に喜びと感動を与えました。

恒例の昼食懇親会はコロナ禍を勘案し中止しました。

10 「創立70周年記念誌」作成

日本書道院創立70周年を記念して「記念誌」作成しました。11月の100人展・選抜展・同人展までを網羅したため、刊行は2022年となりますが日本書道院の歴史が一冊で分かる充実した記念誌となりました。

11 記念講演会

創立70周年の記念事業として東京国立博物館副館長の富田淳先生の記念講演会を計画しましたが、コロナ禍の中での会場確保や運営方法等難しいことが重なり、動画による富田先生の講演をHPに公開する方法を取りました。内容は2022年に東京国立博物館と台東区立書道博物館の連携企画「趙孟頫とその時代」に即した内容で「趙孟頫と臨書」として頂きました。3月末までの期間限定のHP公開ですが皆様ご覧ください。

12. 機関誌「日本書道」の刊行

昭和32年11月創刊以来、令和3年12月現在をもって通刊770号を数え、12月号の発行部数は4,100部である。

13. 関係文化団体との協力について

関係文化団体との連絡提携には格別の意を用いている。公益社団法人全日本書道連盟は維持団体、一般財団法人毎日書道会は参加団体、一般財団法人日本中国文化交流協会は特別会員として加盟している。

なお、中村雲龍会長は全日本書道連盟顧問・毎日書道会顧問・日本中国文化交流協会常任委員として協力している。また三宅相舟副会長は毎日書道会監事・遠山副会長は全日本書道連盟監事として協力している。

14. 会員との連絡について

会員との連絡については、機関誌「日本書道」を通じて周知徹底を図っているが、別に重要な事業については直接会員に通知している。なお、12月1日現在の

会員名簿を作成した。全会員には配布しない事にした。

15. 会報の発行

12月20日付をもって「会報」44号を発行した。

16. 役員会及び各種委員会の開催

役員会7回 各種委員会・打合せ会7回

17. 支部の指導と地方展の後援

支部の行事と地方展に対する指導後援は次のとおりである。

- | | | | | |
|-----|-----|-----------------|-----|----------|
| (1) | 1月 | 開玄社書展 | 2月 | 静書会書展 |
| | 2月 | くれない会書展 | 6月 | 祥祇会書展 |
| | 10月 | 嘉門書舎創立55周年記念小品展 | | |
| | 11月 | 葵心会書展 | 11月 | 墨翠会書道展 |
| (2) | 7月 | 開玄社作品研修会 | 7月 | 水光会作品研修会 |

18. 会員数

12月31日現在の本院の会員数は1,430名である。

19. 令和3年12月末現在の役員は次のとおりである。

| | | |
|-------|-------|-------|
| 常任顧問 | 高橋静豪 | 市川嘉泉 |
| | 北島露光 | 堀宮崎雅峯 |
| 顧問 | 金子子薫静 | 神谷京子 |
| 会長理事 | 中村雲龍 | |
| 副会長理事 | 三宅相舟 | 遠山白雲 |
| 常務理事 | 稲葉如龍 | 斉藤龍堂 |
| 理 | 成田寿苑 | |
| | 青砥相蓉 | 荻野静雲 |
| | 神作花紅 | 駒崎流芳 |
| | 白石東苑 | 菅谷志水 |
| | 平山美影 | 細瀨柳青 |
| | 山田白苑 | |
| 監事 | 小泉瑤伸 | 矢島虹周 |
| | 中村忠雄 | |

令和3年度事業報告に関して、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定している附属明細書により、その内容を補足すべき重要な事項はありませんので附属明細書は作成しておりません。